

皇帝にもらった花のたね

むかしむかし、花のだいすきなくにがありました。みんなが、あちこちにはなのたねをまいてそだてていたの、くにじゅうに花のいいかおりがしていました。あるとき、このくにの皇帝がよつぎをきめることになり…。

(デミ作/絵 武本佳奈絵 徳間書店刊)

松戸市立図書館本館	365-5115
明分館	368-6705
古ヶ崎分館	367-4500
小金分館	343-8658
小金北分館	343-3302
小金原分館	344-8269
五香分館	386-8250
新松戸分館	343-6006
東部分館	391-0595
常盤平分館	387-2528
二十世紀が丘分館	392-7022
松飛台分館	386-6401
馬橋分館	341-4100
馬橋東分館	346-2054
稔台分館	367-7196
六実分館	385-0117
矢切分館	368-1243
八柱分館	387-2613
八ヶ崎分館	348-6636
和名ヶ谷分館	392-1102

本館・分館 のあんない

あいているじかん

- ・火ようび～日ようび
- ・9時30分～5時

おやすみの日

- ・月曜日
- ・図書館のカレンダーを
見て下さい
- ・館によって
お休みの日が違います

《先生・保護者のみなさんへ》

「こどものほんだな」は、平成20年7月から、平成21年7月までに出版された児童書の中から図書館が選び、子ども達に紹介するものです。子ども達と一緒にぜひお読みください。



こどものほんだな

(低学年用)



松戸市立図書館

平成21年12月発行



トン・ウーとはち

お寺のはしらのかげに、はちの巣をみつけたトン・ウーは木のえだで、巣をたいた。するとその巣から一ぴきのはちがでてきた。このはちはもう何百年も死なずに生きていたはちだ。こんなことは、はじめてと、はちは「ぶずぶずぶず ぶじぶじぶじ」と、いかりながら巣からでてきた。

(小園サチ子 小原かほり絵 講談社刊)

ケンケンとムンムン

南の島に小さな島がありました。その島には人間よりも葉っぱのような小さな妖精たちがすんでいました。ケンケンとムンムンはこの島にすむ双子の妖精でした。お父さんのなまえは、ケンムン。お母さんのなまえは、ミンミンといいました。(なんぶかずや作 たしませいぞう絵 福音館書店刊)



ダンスの好きなジョセフィーヌ

おどりのだいすきなカンガルーのジョセフィーヌ。おとうとのジョーイに「カンガルーがおどるなんてへんだよ」といわれてもぜんぜん気にしません。ある日、町のおおきなげきじょうにバレエだんがやってくることを知ると…。

(ジャッキー・フレンチ作 ブルース・ホワットリー絵 三原泉訳 鈴木出版刊)

かさの女王さま

タイの山おくに、かさをなんびやくねもつくりつづけてきた村がありました。まいとしおしょうがつには、村いちばんの絵つけをした「かさの女王」がえらばれるのです。小さなヌットもじぶんのかさをつくりたいと、いっしょうけんめいお手伝いをしました。

(シリン・イム・ブリッジズ作 ユ・テウン絵 松井るり子訳 セーラー出版刊)



あーちゃんのおにいちゃん

あーちゃんのおにいちゃんは、しゅくだいはやらない、おきたままの、ぼさぼさのかみのけでがっこうへいくし、さかあがりはできない、ぶらんこにのると、きもちわるくなるし、おとうさんにおふるにはいれ、といわれてもはいらないし、こんなおにいちゃんだけど、あーちゃんのおにいちゃんです。

(ねじめ正一作 長野ヒデ子絵 偕成社刊)

ハリセンボンがふくらんだ

ハリセンボンって知っていますか。大きい顔、おちょぼ口、大きな歯に大きな目。からだじゅうに太くて長いとげがいっぱい生えている魚です。ハリセンボンのとげはなんのためにあるか知っていますか。この本では、ハリセンボンのことがわかりやすくかかれています。

(鈴木克美作 石井聖岳絵 あかね書房刊)



ネコのアリストテレス

ネコのアリストテレスはネコに九つの命があるのを知りませんでした。アリストテレスのおかあさんが、この子はきょうだいの中でいちばん可愛いもの知らずだから、九つも命があると知ったら何をするかわからないので、おしえないことにしました。

(デック・キング=スミス作 ポブ・グラハム絵 石随じゅん訳 評論社刊)

しあわせの子犬たち

わたしは、毎年夏になると、おばあちゃんの農場へ行く。今年はおばあちゃんが秘密のできごとが起こるよ、と教えてくれた。それは犬のエルシーが子犬を産むということだった。わたしは、どきどきしてエルシーを見守っていた。そして…。

(M・ラバット作 若林千鶴訳 むかいながまさ絵 立石出版刊)



もん 門ばんネズミのノーマン

マジステック美術館の裏に、秘密の抜け穴があります。その前にはノーマンというネズミがたっています。ノーマンの仕事は美術館の門ばんで、地下室にしまっている宝物を見に来るお客様を迎え入れて、いろいろな美術品を説明してあげるのが仕事です。

ただひとつノーマンが心配なこととは…。 (ドン・フリーマン作

やましたはるお訳 BL出版刊)

松戸市立図書館本館	365-5115
明分館	368-6705
古ヶ崎分館	367-4500
小金分館	343-8658
小金北分館	343-3302
小金原分館	344-8269
五香分館	386-8250
新松戸分館	343-6006
東部分館	391-0595
常盤平分館	387-2528
二十世紀が丘分館	392-7022
松飛台分館	386-6401
馬橋分館	341-4100
馬橋東分館	346-2054
稔台分館	367-7196
六実分館	385-0117
矢切分館	368-1243
八柱分館	387-2613
八ヶ崎分館	348-6636
和名ヶ谷分館	392-1102

本館・分館 のあんない

あいているじかん

- ・火ようび～日ようび
- ・9時30分～5時

おやすみの日

- ・月曜日
- ・図書館のカレンダーを
見て下さい
- ・館によって
お休みの日が違います

《先生・保護者のみなさんへ》

「こどものほんだな」は、平成20年7月から、平成21年7月までに出版された児童書の中から図書館が選び、子ども達に紹介するものです。子ども達と一緒にぜひお読みください。



こどものほんだな

(高学年用)



松戸市立図書館

平成21年12月発行



ちよつと源さんお借りします
 笹岡源治。源さんは、母さんの父親で僕のおじいちゃんだ。7月に僕の家に来てきた。源さんは小さな工務店をもつ大工さんだったが、おばあちゃんが亡くなって4年。町も高齢化が進み、仕事も少なくなったのを機会に僕たちと一緒に住むことになった。(尾崎美紀作 新野めぐみ絵 文研出版刊)

リンゴの丘のベツティー

ベツティーは9歳の女の子。正式な名前をエリザベス＝アンといいます。ベツティーは赤ちゃんの時に両親を亡くし、ハリエツト大おばさんに大切に育てられました。ところが、ベツティーが9歳になった時、大おばさんが病気になるてしまい、一人で親せきの農場に行くことになりました。(ドロシー・キャンフィールド・フィッシャー作 多賀京子訳 佐竹美保絵 徳間書店刊)



カワセミ 青い鳥みつけた
 みなさんは、カワセミって知っていますか。「青い宝石」と言われるきれいな鳥です。日本中の川や湖にすんでいます、その姿を見ることはなかなかできません。この本では、その貴重なカワセミの写真を、いつか本物が見たいと思っていた作者がたくさん紹介してくれます。(嶋田忠文/写真 新日本出版社刊)

マグロをそだてる

マグロっていうと、何を想像しますか？お寿司・さしみ。この本では世界で、はじめてクロマグロの完全養殖に成功した話をわかりやすく書かれています。32年間の研究の成果が写真と絵で見ることができます。(熊井英水監修 江川多喜雄文 高橋和枝絵 アリス館刊)



空と大地と虹色イルカ
 今日から夏休み。午前3時50分、家をそっと抜けて玄関を出るとオジイがタバコをくわえたまま立っていた。オジイは町一番の漁師。僕はオジイと3カ月ぶりに海に出る。港までオジイと2人で走って行った。港には誰もいない、一番乗りだ！(ながすみつき作 高田勲絵 学習研究社刊)

おつきさまのやくそく

ぼくは、こんやはひとりで、ごはんをたべて、ベッドにはいります。おとうさんがおそいので、ひとりでおるすばんです。だんだんくらくらしてきたので、へやのあかりをつけました。けどちょっとそとがひかっているのです。そこでカーテンをあけてみると、おつきさまがたっていました。(いとうひろし作 講談社刊)



あたしが部屋から出ないわけ
 私は自分の部屋でストライキを始めた。理由はある。おばあちゃんがなくなったこと。そして、新しいお母さんに赤ちゃんが生まれることになっているので、おばあちゃんのお葬式にも出られなかったこと。(アメリカー・クーテュール作 末松氷海子訳 小泉るみ子絵 文研出版刊)

おとうさんのちず

戦争で僕の家族は何もかも失ってしまい、命からがら逃げ出した。そして、遠い東の国までやってきた。僕たちは小さな部屋で他の人と一緒に暮らしていた。ある日、お父さんはパンを買いに市場へ出かけた。しかしお父さんが買ってきたものは、パンではなく一枚の地図だった。(ユリ・シュルヴィッツ作 さくまゆみこ訳 あすなる書房刊)

